



- 特別上映会「活動写真弁士の説明によるサイレント映画上映会 in TAMA」
- 特別上映会レポート『ちづる』
- 第20回映画祭での上映作品が劇場公開開始! 『誰も知らない基地のこと』
- 実行委員のおススメ映画コーナー
- 逗子映画祭レポート ● お知らせ

たまシネマ通信

TAMA映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山(永山公民館内)
 代表:042-337-6661 直通:080-5450-7204 http://www.tamaeiga.org/

特別上映会

「活動写真弁士の説明によるサイレント映画上映会 in TAMA」

— 説明: 片岡 一郎 氏 —



サイレント映画『アーティスト』がアカデミー賞で作品賞や監督賞、主演男優賞など5部門を受賞し、サイレント映画に注目が集まっています。今回は片岡一郎氏をお招きして、サイレント映画の特集上映を行います! 5月19日(土)、会場はベルブホールです。

■弁士紹介■

◆片岡 一郎 氏 (かたおか いちろう) ◆

昭和52年11月東京生まれ。平成13年3月日本大学芸術学部演劇学科を卒業。平成14年2月澤登翠に入門。口演作品は洋・邦・アニメ・記録映画と守備範囲は広い。さらに中国の無声映画に独自の境地を開く。海外公演は2007年クロアチア、2008年ドイツ、2009年クロアチア、2011年オーストラリア、ドイツ。それぞれ好評を博す。バイオリン演歌を福岡詩二、紙芝居を秋山栄栄より指導を受ける。国内外での公演のほか、執筆や舞台出演、声優業なども手掛けている。

■上映作品■

『大列車強盗』 THE GREAT TRAIN ROBBERY

アメリカ / 1903年 / 白黒 / 12分 監督:エドウィン・S・ポーター 出演:アルフレッド・C・アバディ、ブロンコ・B・アンダーソン 他

<解説>わずか12分であるが、アメリカ映画では初めてといえる本格的な筋立てを持った作品。ロケーション撮影やクロスカットなどの当時革新的だった映画技術が使用され、興行的に成功した。この作品はアメリカ国立フィルム登録簿の保存対象に選ばれている。



『大列車強盗』

『ローレル & ハーディ 二人の水夫』 TWO TARS

アメリカ / 1928年 / 白黒 / 20分 監督:ジェームズ・パロット 出演:スタン・ローレル、オリバー・ハーディ 他

<解説>別題『極楽交通大渋滞』。サイレントからトーキーの時代にかけて活躍したコメディアンコンビ・ローレルとハーディの喜劇映画シリーズの一つ。彼らは日本で「極楽コンビ」の名称で親しまれた。何台もの自動車が破壊されるのがこの作品の見所だ。

『月世界旅行』 LE VOYAGE DANS LA LUNE

フランス / 1902年 / 白黒 / 11分 監督:ジョルジュ・メリエス 出演:ジョルジュ・メリエス、ジュアンヌ・ダルシー 他

<解説>当時としては物語があるという非常に画期的な映画。また、世界で初めてのSF映画とも言われており、映画史における重要な作品でもある。宇宙ロケットが月の顔に突き刺さる映像はとでも有名。

『喧嘩安兵衛』

阪東妻三郎プロダクション / 1928年 / 白黒 / 7分 監督:湊岩夫、横溝雅弥 出演:阪東妻三郎、安田善一郎 他

<解説>後に制作された『血煙高田の馬場』でも知られる中山安兵衛を阪東妻三郎が演じている映画。同じ中山安兵衛を演じた大河内伝次郎の映画もほぼ構成は一緒である。安田善一郎がお婆さん役を演じているのも見物だ。



『喧嘩安兵衛』

『太郎さんの汽車』

横浜シネマ商会 / 1929年 / 白黒 / 10分 演出・作画:村田安司

<解説>実写とアニメを組み合わせた構成になっている映画。お父さんからお土産で模型の機関車をもらい、夜遅くまで楽しく遊ぶ太郎さん。遊び疲れて眠った太郎さんは、夢の中で汽車の車掌さんになっていて……。

3/17 (土) 特別上映会レポート 『ちづる』

去る3月17日(土)、ベルブホールにて映画『ちづる』上映会を開催しました。

雨天でお足元の悪いなか、多くの方々に上映会へお越しいただき、誠に感謝申し上げます。

2回目上映後、赤崎正和監督をお招きしてトークショーを行いました。拙い司会の最初の質問がすぐ終わり、自他共に冷や冷やしていたのですが(申し訳ないです…)、お客様から多くの質問が出て、45分のQ & Aはあっという間に終了いたしました。

現在、知的障がい者の福祉施設に勤務されているという監督。

ほぼ家で過ごしていた妹のちづるさんのようなケースとは違うところでの勤務についての質問があり、今回は福祉施設でのケースを撮ってほしいとおっしゃっていました。確かに、ちづるさんを見て、撮った監督だからこそ、ケースの異なった視点ではどういふふうになるか、興味がありますよね。



赤崎正和監督

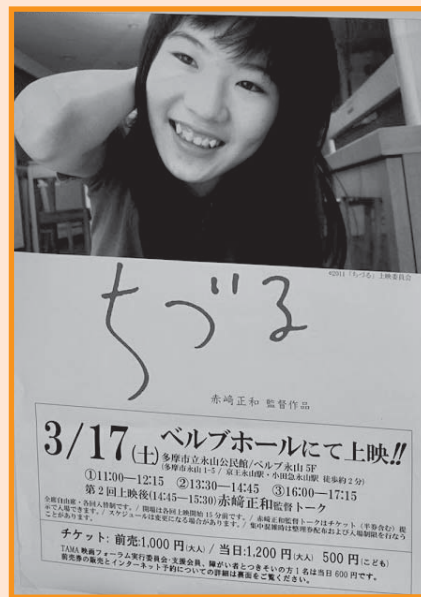
そういえば、ちづるさんはこの映画をご覧になったのか、監督に伺ったところ、「主役の映画だよ」と言って見せたようで、非常に喜んでいただけておっしゃっていました。

映画を観て満面の笑顔を浮かべ、声に出して嬉しがっているちづるさんが、すぐに想像できます。

我々の映画祭や上映会にお越しになっ

たことが一度もない方も多くいらして、なかには3時間かけて多摩まで来たご家族もいらっしゃいました。こういう声を聞くと、監督も、そして我々実行委員も、上映会を開いて良かったと心の底から思います。

ご来場いただいた皆様、赤崎監督、本当にありがとうございました！
(渡邊)



第20回映画祭での上映作品が劇場公開開始！『誰も知らない基地のこと』

2010年の第20回映画祭で実行委員自ら監督と交渉し、更に字幕をつけて日本初上映を行った『スタンディング・アーミー (原題: STANDING ARMY)』。この作品が渋谷のシアターイメージフォーラムにて『誰も知らない基地のこと』という邦題で4月7日から上映が始まりました。

初日の舞台挨拶では監督2人の言葉を真剣にメモするお客さんがあちこちに。そして、同じ日の午後に行われた東京外国語大学での上映会&監督を交えてのセミナーはイスが足りなくなるほどの大盛況でした。

学生たちからは次々に質問が出され、その中の一つ「世の中は変えられないのでは?」という質問に対し、パレンティ監督からとても印象的な答えがありました。「20年後には僕らの世代が政治を行う時が来る、その時には変えられるかもしれない。だからそれまでにいろんな知識を得ておくべきなんだ」と。非常に勇気づけられる言葉でした。

映画祭 TAMA CINEMA FORUM の拠点・多摩市も、そう遠くないところに厚木基地や横田基地、横須賀基地があります。この作品を見て、沖縄だけのことではないこの問題を少し考えてみるきっかけになるといいなと思います。

渋谷での上映は終了しましたが、川越スカラ座で5月19日~6月8日、シネマ・ジャック&ベティで6月16日より上映予定ですので、まだ見ていない方はぜひお見逃しなく。

ついでに監督たちの次回作についても質問してきました。

人道問題を扱う監督だけあって、優しい目をしたパレンティ

監督はアフリカの土地問題に関してのドキュメンタリー。そして、ファッツィ監督は金融危機についてのドキュメンタリーだそうで、好奇心に満ちた笑顔で「大きな問題を扱うのが好きなんだ」と話していました。出来上がったなら多摩の映画祭に一番に届けるよ!とってくれたので、完成を楽しみにしたいと思います。
(三橋)



『SRサイタマノラッパー ロードサイドの逃亡者』(入江悠監督)

『SR サイタマノラッパー』から始まるシリーズ3作品目。舞台は埼玉から群馬を経て、栃木になっており、北関東シリーズ3部作の完結編ということである。

1作目でSHO-GUNGのメンバーと別れ、2作品目には出演していない東京へ行ったマイティーが主人公。マイティーはラッパーになりたいと願いつつも、ある日トラブルをおこし、栃木に逃げ、アンダーグラウンドの仕事で生計を立てていた。そして、そこで開催されるライブイベントの運営に巻き込まれる。その時、SHO-GUNGの残りふたりのメンバーのイックとトムはそのイベントへの出演を目指し、栃木へ向かっていた…。

前2作も笑える部分はあるけど、物悲しくて痛々しい、決して明るい作品ではなかったが、今回は更に重い内容となっている。主人公はふとしたことがきっかけでどんどんどん転落していってしまう。一方、イックとトムは征夷大將軍というラップグループに出会い、一緒にイベントに参加することになる。

映画はライブイベントでの驚異的で気が狂わんばかりの長回しを経て、前2作以上に「ラップが最も似合わない場所」でのラストシーンを迎える。

雨の日に渋谷シネ・クイントで観たが、映画館前では上映前にスタッフ、キャストが大きな声でチラシ配りをしており、更に上映は立ち見ができる大盛況で、上映終了後も出演者が多数舞台あいさつに登場し、会場は観客全員スタンディングという映画の上映とは考えられないくらいに異常な盛り上がりを見せていた。

映画として荒っぽい部分もあるが、出演者や監督、スタッフの熱い気持ちが伝わってくる作品である。必見!! (吉野)

『独裁者』(チャールズ・チャップリン監督)

僕がこの映画を観たのは1990年のことだから、公開されてからちょうど50年経ったころということになります。どこか忘れてしまいましたがどこかの特別上映か何かで観ました。

1990年前後というと天安門事件やら湾岸戦争やら「繰り返してはいけない」と学校で教えられてきたことが“今”の世界でリアルに起きていました。

当時付き合っていた彼女に「何でコレを私と一緒に観ようと思うの?」と聞かれて僕は、「今だからこそ、この映画に学ぶことがあると思う。」などと言いましたがそれは嘘で、ホントは僕の知っている一番身近な“独裁者”にもこの映画を観てもらえたらと思って彼女を誘い、一緒に行きました。

映画館の帰り途、不機嫌そうに黙ったままの彼女が不意に「冒頭のあのシーンだけど、あれでしょ、逆さまの世界にいる人間は、自分が逆さまだってことには気づかない…みたいなことよね?」と言いました。「その通り。そういうメッセージをああいうシーンで表現するチャップリンは偉大だね。」とか言いながら僕自身はそのシーンの意味に全く気づいていなかったことがバレないように振舞いながら帰りました。

あれから20年以上が過ぎましたが、僕はチャップリンの『独裁者』について誰かに話す時はいつも「冒頭のシーンでね…」とか言ってあのシーンを語ります。彼女のことも思いだしながら。

もしもどんなシーンなのか観たことが無いという方がいたら、是非観てください。僕なんかに語られてしまう前に。(高田)

『僕等がいた ~ 前篇・後篇』(三木孝浩監督)

最近のこの種の映画作品と比較しても話の作りが丁寧で、前篇・後篇を通じてストレスなく鑑賞できた。

二部構成にしたのは正解だろう。原作は未読なのだが、問題なく楽しめた。

時間軸的には、前篇は高校が舞台(主役二人が高校2年生)で、後篇はその5~6年後。前篇は、生田斗真演じる「矢野」と吉高由里子演じる「高橋」が会って惹かれあい、恋人となり、その後幾つかの障害があるものの無事乗り越え、絆を強めていくのだが、ある日「矢野」が東京へ転校することになり…というところまで。後篇は、大学4年生になった「高橋」が就職し、社会人生活をスタートさせるものの、実は「矢野」とはあれ(転校)以来全く会っておらず…、という状況で物語は進む。転校後の「矢野」を襲う試練は相当悲惨で、それにより二人は完全にすれ違ってしまった。果たしてそれでも二人の想いは6年の時を経て再び交錯するのだろうか?

個人的に印象に残ったのは、まずはなんといっても吉高由里子の演技。終始「高橋」をしっかり演じていた。存在感が半端ない。年齢的に無理がありそうな前篇時の制服姿にしても、彼女に関しては本人の演技力がそうさせたのか、全然違和感がなかった。それも凄い。

ほかに、後篇で「矢野」が言った「あの人達を支えることで自分も支えられている」という台詞も印象に残った。人との繋がり奥深さを表す素敵な言葉だと思う。

現在後篇公開中。個人的には、やや単調な前篇より、展開に適度な振り幅がある後篇の方がお薦め。前篇をご覧になった方は是非。EDで流れるミスチル久々の新曲も映画の余韻に浸れて心地良い。(徳永)

逗子映画祭レポート



4月28日～5月7日に開催していた逗子海岸映画祭で、スタッフをしてきました。海をバックに設置されたスクリーンで、1日1作品の上映。昼間は様々なイベントが開催され、海、映画、イベント好きが多方面から集まっていたように感じました。

私が参加した日の作品は『銀河鉄道の夜』。午後過ぎより、鶴田真由さん×守時タツミさんによる童話「長靴をはいた猫」のLIVE付き朗読や、cinema amigo 館長の長島源さん×orange pekoeの藤本一馬さんによるLIVEもあり、上映に向け、どんどん盛り上がりを増していました。

上映前に作品の楽曲を担当した細野晴臣さんのトークもあったため、一時は受付に長蛇の列が出来るほどの賑わいとなりました。

1つのスクリーンの前に、老若男女様々な人が集まり、同じ作品を観て、同じ時間を共有する。そんな風景を眺めていて、やはり映画は良いものだなあとしみじみ感じました。微かな波の音と、穏やかな夜風が心地よい、素敵な空間でした。(矢部)



お知らせ

次回特別上映会7/7(土)は『季節、めぐりそれぞれの居場所』を上映予定

大きな感動を呼んだドキュメンタリー映画『ただいまそれぞれの居場所』(平成22年度文化庁映画賞「文化記録映画大賞」)から2年、大宮浩一監督が再び介護の原点を雪の北津軽、震災直後の宮古、真夏の石巻……と、「老いと死」を通して私たちに見つめさせていきます。

*上映会当日は大宮監督のトークも予定しています。

上映時間など詳細は順次、TAMA映画フォーラムホームページ(<http://WWW.tamaeiga.org/>)、チラシなどで告知いたします。

©大宮映像製作所

TAMA CINEMA FORUM 第22回映画祭

第22回目を迎える今年の映画祭は11月17日(土)～24日(土)に開催予定です。

現在は映画祭でどんな作品を上映しようかと企画案を練っている段階です。

今年の映画祭ではどんな映画が上映されて、どんなゲストが来場するのか…。そして第4回目を迎える日本で一番早い(!?) TAMA映画賞はどんな作品・受賞者に贈られるのか。皆さん、どうぞお楽しみに!

また、第13回を迎えるTAMA NEW WAVEも作品募集中です。こちらもご期待下さい。



第3回TAMA映画賞受賞式より

募集しています!

☆ 映画祭実行委員 ☆

映画好きの方、イベント好きの方、ぜひ映画祭実行委員として映画祭の運営に参加してみませんか。興味のある方は日程を調整の上、説明会を行いますのでお問い合わせください。

☆ たまシネマ隊 ☆

実行委員としての活動は難しいけれど、映画祭の期間のみならお手伝いしたいという方は、ぜひたまシネマ隊で! たまシネマ隊の募集説明会は9月頃かから行います。詳細は後日ホームページの方で発表いたします。



CM部会より

第22回映画祭に向けて、「自転車に乗って映画祭に行こう!」をテーマにただいま、CM制作の撮影準備中です。乞うご期待!

○ 支援会員制度のお願い ○

「実行委員やたまシネマ隊として参加するのは難しいけどTAMA映画フォーラムを応援したい」

そんな方はぜひ「支援会員」としての応援をお願い致します。

支援金寄付 個人会員: 一口1000円 ご協力いただいた方は、映画祭パンフレットの贈呈などの特典もございます。

●郵便振替番号 00160-5-541123 加入者名 TAMA映画フォーラム実行委員会

(ご不明な点はお問い合わせ下さい)